

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2007 年夏のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 14 弾～

2007 年 7 月



<目次>

I. 調査概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査の実施要領	2
3. 回答者の基本属性	3
II. 調査結果	5
〔1〕 夫のこの夏のボーナス	6
1. ボーナスの手取り額	6
2. 昨年の夏との手取り額の比較	8
3. ボーナスの使い道	9
4. ボーナスの使い道を決めた人	10
5. 子どもはボーナスの恩恵に浴したか	11
〔2〕 ボーナスと家計	12
1. 家計の中でのボーナスの位置づけ	12
2. この夏のボーナスをもらった時の気持ちを表す顔文字	14
3. ボーナスを外貨でもらう場合どの通貨で欲しいか	16
4. ボーナスをその外貨で欲しい理由	17
〔3〕 ボーナスにまつわる話	20
1. 臨時ボーナスをあげたいと思う人	20
2. 主婦としての働きに対してもらうボーナスの適当な金額	21
3. ボーナスの中から夫に渡した小遣い	22
4. 夫に働いて欲しいと思っている年齢	23
5. その年齢まで働いて欲しいと思う理由	24
〔4〕 わが家の家計	27
1. 現状での家計の苦しさ	27
2. 今後の家計の見通し	29
3. 支出や資産運用見直しの必要性	31
4. 支出や資産運用を見直したい費目	33
〔5〕 妻が夫に内緒にしている資産	36
1. 妻が夫に内緒にしている資産の額	36
2. 夫に内緒の資産の目的	38
3. 資産を得た方法	39

I . 調査概要

1. 調査の目的

家計を切り盛りしている主婦は、夫が受給しているボーナスやわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのでしょうか。

本調査は、“わが家の生活防衛策シリーズ”第14弾として、サラリーマンの夫を持つ主婦を対象に、この夏のボーナスに対する主婦の反応や家計対策などに関する意識と実態を明らかにするために実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

民間企業に勤めるサラリーマン世帯の20代から50代の主婦500人
<サンプル配分>

合計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

web 調査

(3) 調査時期

平成19年6月15日～6月18日

(4) 調査項目

- ・夏のボーナスの手取り額と、昨年と比較した増減額
- ・ボーナスの使い道とその使い道を決めた人、子どもはボーナスの恩恵を受けられるのか
- ・家計の中でのボーナスの位置づけ
- ・この夏のボーナスを受け取った時の気持ちを顔文字で表すと
- ・ボーナスを外貨でもらうとしたらどこの国の通貨がいいか、またそう思う理由
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人
- ・自分の主婦としての働きに対してボーナスを払うとしたら妥当な金額は
- ・ボーナスの中から夫に小遣いとしていくら渡したか
- ・夫に何歳まで働いて欲しいと思うか、またそう思う理由
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・家計見直しの必要性を感じるか、また何を見直すべきだと思うか
- ・夫に内緒にしている自分の資産、貯めた金額・貯める目的・貯めた方法
- ・回答者の基本属性
(自身の職業、家族構成、夫の役職、夫の勤務先の業種、住居形態、世帯年収、など)

3. 回答者の基本属性

F1. 年齢

サンプル数	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	平均(歳)
500	9	116	66	59	84	41	83	42	39.6
100.0	1.8	23.2	13.2	11.8	16.8	8.2	16.6	8.4	

F2. 職業の有無

サンプル数	正規有職	パート・アルバイト	専業主婦	*有職主婦
500	65	146	289	211
100.0	13.0	29.2	57.8	42.2

F3. 世帯構成

サンプル数	夫婦のみ	夫婦+子	親+3世代同居(子+夫婦+孫)	親+夫婦2世代	その他
500	115	331	32	18	4
100.0	23.0	66.2	6.4	3.6	0.8

F4. 扶養している子供の有無

サンプル数	いる	いない
500	305	195
100.0	61.0	39.0

F5. 夫の役職

サンプル数	役職なし	係長・主任クラス	課長クラス	部長クラス以上
500	187	132	98	83
100.0	37.4	26.4	19.6	16.6

F6. 夫の勤務先の業種

サンプル数	水産・農林・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業	金融・サービス業・不動産
500 100.0	5 1.0	40 8.0	170 34.0	39 7.8	56 11.2	48 9.6	142 28.4

F7. 住まいの形態

サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮	*持ち家
500 100.0	206 41.2	6 1.2	132 26.4	124 24.8	32 6.4	338 67.6

F7-1. 現在の住宅ローンの有無

サンプル数	ある	ない
338 100.0	233 68.9	105 31.1

F8. 世帯年収(税込み)

サンプル数	400万円未満	400万円～600万円	600万円～800万円	800万円～1000万円	1000万円以上
500 100.0	39 7.8	134 26.8	117 23.4	97 19.4	113 22.6

II. 調査結果

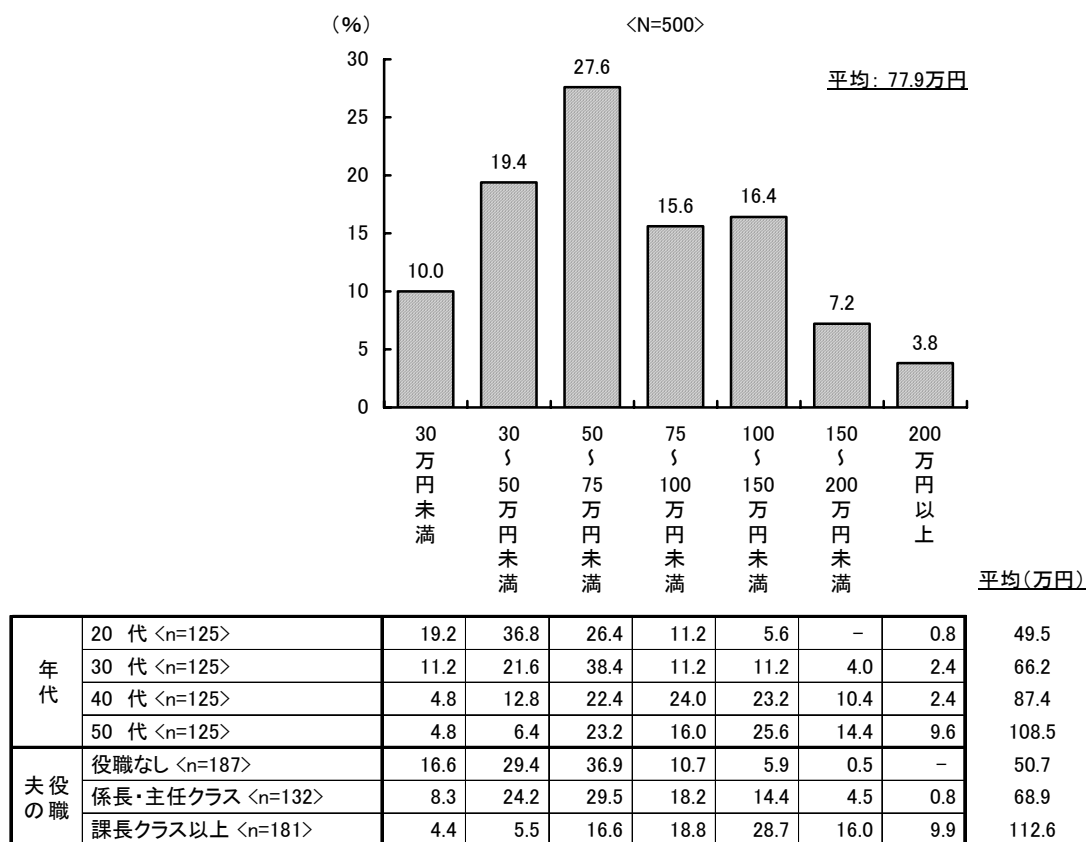
〔1〕夫のこの夏のボーナス

1. ボーナスの手取り額

「50～75万円未満」(27.6%)が最も多く、以下「30～50万円未満」(19.4%)、「100～150万円未満」(16.4%)。平均金額は77.9万円。

◆年代別平均金額は《20代》が49.5万円、《30代》が66.2万円、《40代》が87.4万円、《50代》が108.5万円。

図1. ボーナスの手取り金額



夫が受け取ったこの夏のボーナスの手取り額がいくらだったのか、家計を預かる主婦に聞きました。

最も多いのは「50～75万円未満」(27.6%)で、次いで「30～50万円未満」(19.4%)、「100～150万円未満」(16.4%)、「75～100万円未満」(15.6%)の順となっています。平均金額は77.9万円、最高金額は400万円です。

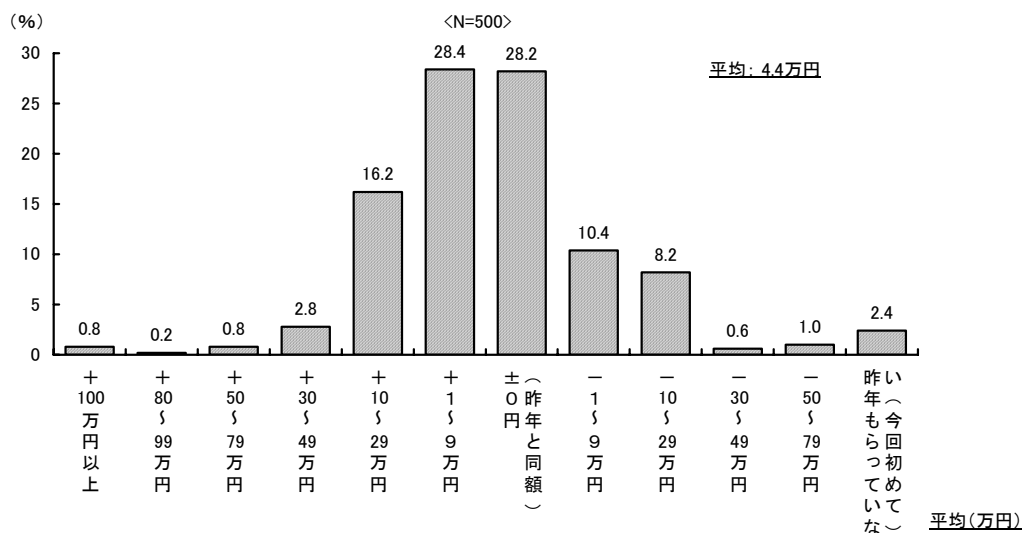
- 年代別に見ると、当然ながら年齢の高い人ほど高額で、《20代》は「30～50万円未満」(36.8%)が最も多く平均49.5万円、《30代》は「50～75万円未満」(38.4%)が最も多く平均66.2万円、《40代》は「75～100万円未満」(24.0%)が最も多く平均87.4万円、《50代》は「100～150万円未満」(25.6%)が最も多く平均108.5万円となっています。
- 夫の役職別に見ると、《役職なし》は「50～75万円未満」(36.9%)が最も多く平均金額は50.7

万円、《係長・主任》も「50～75万円未満」(29.5%)が最も多く平均金額は68.9万円ですが、
《課長以上》は「100～150万円未満」(28.7%)が最も多く平均金額は112.6万円となっています。

2. 昨年の夏との手取り額の比較

“増えた” (49.2%) がほぼ半数を占め、次いで「±0円 (昨年と同額)」 (28.2%)、 “減った” (20.2%) となっている。平均は+4.4万円。
 ◆年代別に見ると、《20代》は+4.6万円、《30代》は+3.1万円、《40代》は+5.6万円、《50代》は+4.3万円と、年代による差はあまり大きくない。

図2. 昨年の夏と比較したボーナス手取り額の増減幅



年代	増減幅 (円)												平均 (万円)
	-100	-80	-50	-30	-10	+1	±0	-1	-10	-30	-50	昨年	
20代 <n=125>	-	-	0.8	0.8	20.0	38.4	19.2	8.0	7.2	-	0.8	4.8	4.6
30代 <n=125>	-	-	0.8	3.2	16.8	28.8	25.6	15.2	5.6	1.6	1.6	0.8	3.1
40代 <n=125>	0.8	0.8	0.8	3.2	16.8	27.2	30.4	11.2	7.2	-	0.8	0.8	5.6
50代 <n=125>	2.4	-	0.8	4.0	11.2	19.2	37.6	7.2	12.8	0.8	0.8	3.2	4.3
夫役の職	役職なし <n=187>												2.7
	-	-	-	0.5	17.1	32.6	24.1	13.4	6.4	1.1	0.5	4.3	
	1.5	-	0.8	3.0	13.6	30.3	31.1	11.4	7.6	-	-	0.8	
係長・主任クラス <n=132>													5.6
課長クラス以上 <n=181>	1.1	0.6	1.7	5.0	17.1	22.7	30.4	6.6	10.5	0.6	2.2	1.7	5.3

では、この夏のボーナスの手取り額は昨年の夏と比べて増えたのでしょうか、減ったのでしょうか、その増減額をあげてもらいました。

“増えた” (49.2%) がほぼ半数を占めており、続いて「±0円 (昨年と同額)」 (28.2%)、 “減った” (20.2%) となっています。また、“増えた” という人では「+1~9万円」 (28.4%) が最も多くなっています。平均は+4.4万円です。

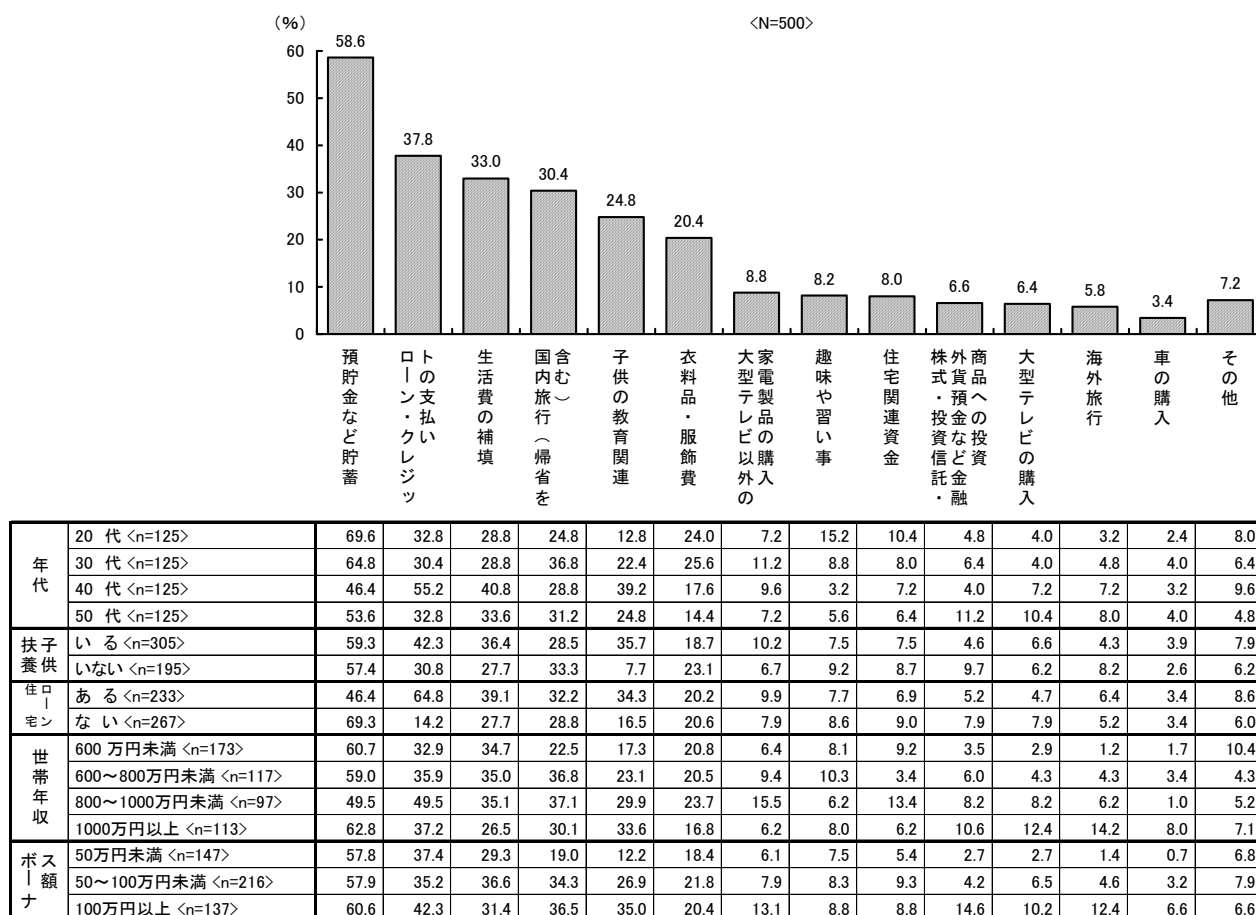
- 年代別に増減額の平均を見ると、《20代》は+4.6万円、《30代》は+3.1万円、《40代》は+5.6万円、《50代》は+4.3万円となっています。
- 夫の役職別に増減額の平均を見ると、《役職なし》は+2.7万円ですが、《係長・主任》は+5.6万円、《課長以上》は+5.3万円で、《役職なし》の増加額が最も抑えられています。

3. ボーナスの使い道

「預貯金など貯蓄」(58.6%) が最も多くただ一つ半数を超えている。以下「ローン・クレジットの支払い」(37.8%)、「生活費の補填」(33.0%) が続く。

◆《40代》は「ローン・クレジットの支払い」(55.2%)「生活費の補填」(40.8%) が他の年代より多い。

図3. この夏のボーナスの使い道【複数回答】



この夏のボーナスをどのように使うのか、ボーナスの使い道について聞きました。

最も多いのは「預貯金など貯蓄」(58.6%)で、ただ一つ半数を超えています。以下「ローン・クレジットの支払い」(37.8%)、「生活費の補填」(33.0%)、「国内旅行（帰省を含む）」(30.4%)、「子どもの教育関連」(24.8%)、「衣料品・服飾費」(20.4%)などが続いています。

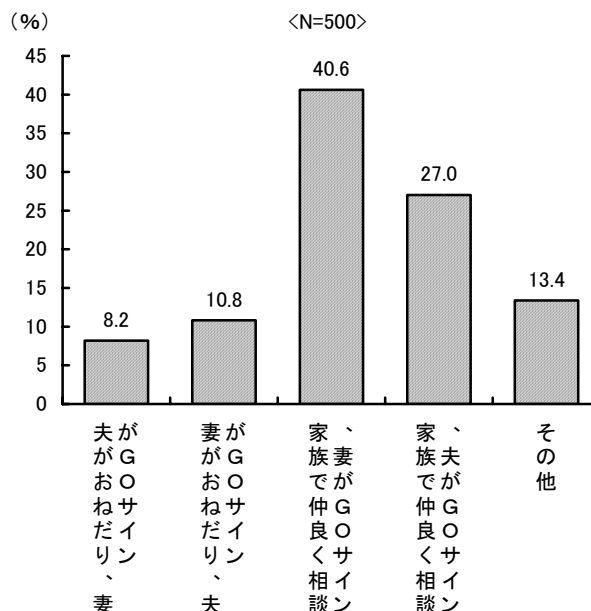
- 年代別に見ると、《20代》は「預貯金など貯蓄」(69.6%)がとりわけ多く、《30代》《50代》も「預貯金など貯蓄」(64.8%、53.6%)が非常に多いのに対して、《40代》は「ローン・クレジットの支払い」(55.2%)が最も多く、「生活費の補填」(40.8%)「子どもの教育関連」(39.2%)も他の年代を大きく上回っています。
- 住宅ローンの有無別に見ると、《ローンのある人》は「ローン・クレジットの支払い」(64.8%)が6割を超え「預貯金など貯蓄」(46.4%)が4割強にとどまっているのに対して、《ローンのない人》は「預貯金など貯蓄」(69.3%)がほぼ7割となっています。
- 世帯年収別に見ると、「子どもの教育関連」は年収の高い人ほど多くなっています。

4. ボーナスの使い道を決めた人

「家族で仲良く相談、妻がGOサイン」(40.6%)が最も多く、次いで「家族で仲良く相談、夫がGOサイン」(27.0%)。

◆若い人ほど「家族で仲良く相談、妻がGOサイン」が多く、《20代》では45.6%。

図4. ボーナスの使い道を決めた人



年代	使い道					
	夫がGOサイン、妻がGOサイン	妻がGOサイン、夫がGOサイン	家族で仲良く相談、妻がGOサイン	家族で仲良く相談、夫がGOサイン	その他	
20代 <n=125>	7.2	10.4	45.6	28.8	8.0	
30代 <n=125>	5.6	9.6	42.4	30.4	12.0	
40代 <n=125>	12.0	8.8	40.8	20.8	17.6	
50代 <n=125>	8.0	14.4	33.6	28.0	16.0	
ボーナス額	50万円未満 <n=147>	8.2	6.8	47.6	26.5	10.9
	50～100万円未満 <n=216>	8.3	10.2	41.7	25.9	13.9
	100万円以上 <n=137>	8.0	16.1	31.4	29.2	15.3

さらに、この夏のボーナスの使い道は誰が決めたのか聞いてみました。

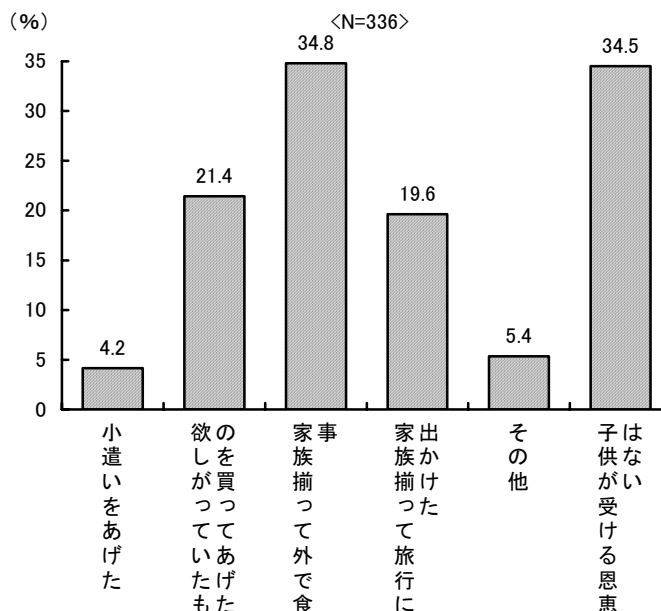
最も多いのは「家族で仲良く相談、妻がGOサイン」(40.6%)で4割を占めています。次いで「家族で仲良く相談、夫がGOサイン」(27.0%)が多く、この2つをあわせると“家族で仲良く相談”(67.6%)が全体の7割近くを占めます。多くのサラリーマン家庭では、ボーナスは家族の絆を結びつける一大イベントになっているようです。

- 年代別に見ると、いずれの年代でも「家族で仲良く相談、妻がGOサイン」が最も多くなっていますが、その傾向は若い人ほど顕著で、《50代》(33.6%)では3割強ですが、《20代》(45.6%)では4割を大きく超えています。
- ボーナスの受給額別に見ると、受給額が低い人ほど「家族で仲良く相談、妻がGOサイン」が多く、《100万円以上》(31.4%)では3割にとどまりますが、《50万円未満》(47.6%)では半数弱を占めています。

5. 子どもはボーナスの恩恵に浴したか

「家族揃って外で食事」(34.8%)が3割強、「欲しいものを買ってあげた」(21.4%)、「家族揃って旅行に出かけた」(19.6%)は2割。しかし、「恩恵はない」(34.5%)も3割強。
 ◆《30代》は「家族揃って外で食事」と「家族揃って旅行に出かけた」(各29.2%)が同数。

図5. 子どもはボーナスの恩恵を受けられたか(小学生以下の子どもがいる人のみ)【複数回答】



	割合 (%)						
	小遣いをあげた	欲しいものを買ってあげた	家族揃って外で食事	家族揃って旅行に出かけた	その他	子供がいない恩恵を受ける恩恵	
年代	20代 <n=78>	2.6	24.4	33.3	20.5	7.7	29.5
	30代 <n=89>	1.1	22.5	29.2	29.2	3.4	34.8
	40代 <n=99>	9.1	22.2	35.4	16.2	7.1	35.4
	50代 <n=70>	2.9	15.7	42.9	11.4	2.9	38.6
ボーナス額	50万円未満 <n=98>	2.0	22.4	40.8	11.2	4.1	35.7
	50～100万円未満 <n=150>	3.3	19.3	32.0	24.0	6.0	34.0
	100万円以上 <n=88>	8.0	23.9	33.0	21.6	5.7	34.1

子どもたちは父親の夏のボーナスの恩恵に浴することができたのでしょうか。小学生以下の子どもさんがいるという家庭の主婦に、子どもがどのような恩恵を受けたのか聞きました。

最も多いのは「家族揃って外で食事」(34.8%)で、次いで「欲しいものを買ってあげた」(21.4%)、「家族揃って旅行に出かけた」(19.6%)の順となっています。しかし、その一方で、「子どもが受ける恩恵はない」(34.5%)も3割以上あります。

なお、「小遣いをあげた」(4.2%)と回答した人に、いくらあげたのか具体的な金額をかさねて聞きました。「1,000円」から「100,000円」までの範囲で、最も多いのは「10,000円」(8件)という結果でした。

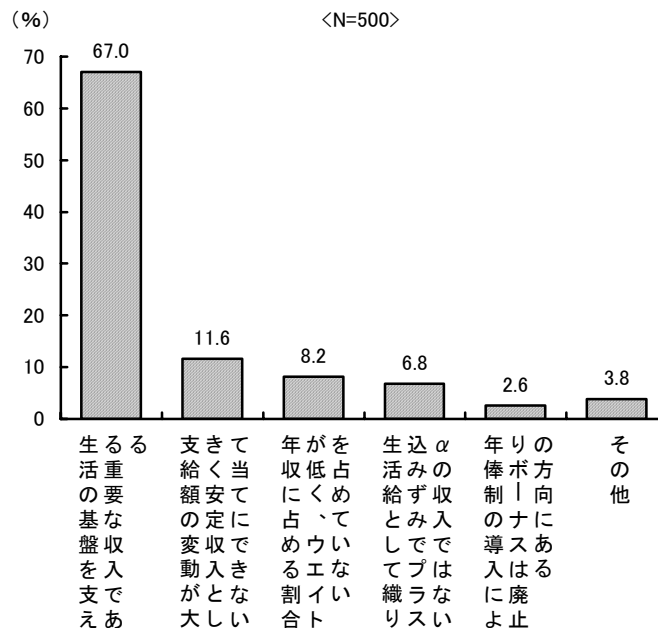
- 年代別に見ると、《50代》は「家族揃って外で食事」(42.9%)が他の年代を上回っているのに対して、《30代》は「家族揃って外で食事」と「家族揃って旅行に出かけた」(各29.2%)が同じ割合となっています。
- ボーナスの受給額別に見ると、《50万円未満》は「家族揃って外で食事」(40.8%)が特に多く、他の層を上回っています。なお、「子どもが受ける恩恵はない」はいずれの層でも35%程度を示しています。子どもが受ける恩恵はボーナスの受給額とは関係ないようです。

〔2〕 ボーナスと家計

1. 家計の中でのボーナスの位置づけ

「生活の基盤を支える重要な収入である」(67.0%) が7割弱を占める。

図6. 家計の中でのボーナスの位置づけ



属性	属性詳細	生活の基盤を支える重要な収入である (%)	支給額の変動が大きく、安定した収入として当てにできない (%)	年収の中に占める割合が低く、収入として大きなウエイトを占めていない (%)	年俸制によりボーナスは年収の一部として支給されており、生活給として織り込み済みでプラスαの収入ではない (%)	年俸制の導入により廃止される方向にあり当てにできない (%)	その他 (%)
年代	20代 <n=125>	58.4	18.4	10.4	4.8	3.2	4.8
	30代 <n=125>	68.8	8.8	11.2	5.6	1.6	4.0
	40代 <n=125>	73.6	10.4	2.4	9.6	0.8	3.2
	50代 <n=125>	67.2	8.8	8.8	7.2	4.8	3.2
夫役の職	役職なし <n=187>	62.0	16.0	10.2	4.8	2.7	4.3
	係長・主任クラス <n=132>	69.7	7.6	8.3	5.3	3.8	5.3
	課長クラス以上 <n=181>	70.2	9.9	6.1	9.9	1.7	2.2
住ロ モン	ある <n=233>	70.4	12.9	5.6	6.9	1.3	3.0
	ない <n=267>	64.0	10.5	10.5	6.7	3.7	4.5
ボス 額ナ	50万円未満 <n=147>	55.1	20.4	14.3	4.1	2.7	3.4
	50~100万円未満 <n=216>	74.1	8.3	5.1	6.0	2.8	3.7
	100万円以上 <n=137>	68.6	7.3	6.6	10.9	2.2	4.4

近年、年俸制の導入などにより、ボーナスの意味や家計の中での位置づけが大きく変化しつつあります。そこで、各家庭ではボーナスを家計の中でどのように位置づけ、今後も重要な収入源として期待しているのか聞いてみました。

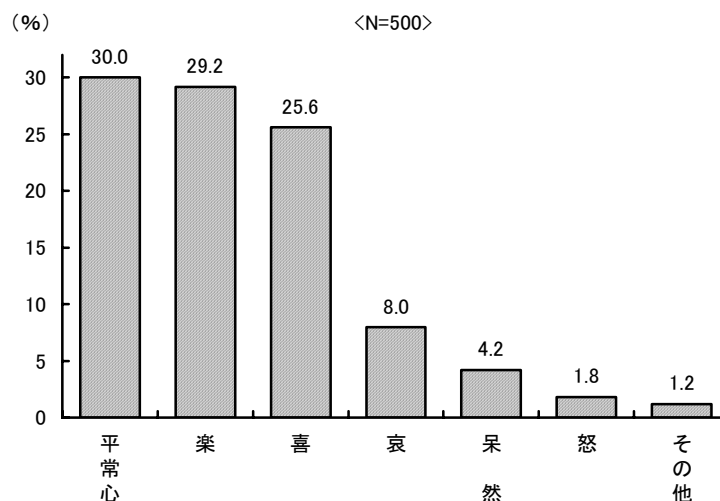
「生活の基盤を支える重要な収入である」(67.0%) が7割弱を占めており、圧倒的に多くなっています。以下、「支給額の変動が大きく、安定した収入として当てにできない」(11.6%)、「年収の中に占める割合が低く、収入として大きなウエイトを占めていない」(8.2%)、「年俸制によりボーナスは年収の一部として支給されており、生活給として織り込み済みでプラスαの収入ではない」(6.8%)、「年俸制の導入により廃止される方向にあり当てにできない」(2.6%)が続いていますが、いずれもさほど多くありません。

ボーナスは、現在もこれからも、サラリーマン世帯にとって重要な収入源であることに間違いなようです。

2. この夏のボーナスをもらった時の気持ちを表す顔文字

「平常心」(30.0%)、「楽」(29.2%)、「喜」(25.6%) がトップ3。「哀」(8.0%)、「呆然」(4.2%)、「怒」(1.8%) のマイナスの表情はごくわずか。
 ◆ 《20代》は「喜」(39.2%) が、《50代》は「平常心」(42.4%) が最も多い。

図7. この夏のボーナスをもらったときの気持ちを表す顔文字



年代	20代 <n=125>	16.0	28.0	39.2	8.8	4.8	0.8	2.4
	30代 <n=125>	28.0	27.2	29.6	8.8	2.4	1.6	2.4
	40代 <n=125>	33.6	31.2	20.8	7.2	5.6	1.6	-
	50代 <n=125>	42.4	30.4	12.8	7.2	4.0	3.2	-
ボーナス額	50万円未満 <n=147>	26.5	21.8	23.1	16.3	7.5	3.4	1.4
	50～100万円未満 <n=216>	31.9	30.6	26.4	4.6	3.7	0.9	1.9
	100万円以上 <n=137>	30.7	35.0	27.0	4.4	1.5	1.5	-

喜	＼(^o^)／
怒	＼(O`Д´O)!!
哀	(; 0 ;)
楽	(^ー^)
呆然	(. . ;)
平常心	(ー _ ー)

この夏のボーナスをもらったときの気持ちを顔文字で表すとしたら、どの顔文字がその時の気持ちに近いかわかってみました。

最も多いのは「平常心」(30.0%)で、「楽」(29.2%)、「喜」(25.6%)が続いています。「哀」(8.0%)、「呆然」(4.2%)、「怒」(1.8%)といったネガティブな表情はどれもごくわずかで

す。受給額に満足した方、満足できなかった方、いろいろな方がおいでになると思われませんが、しかし、いずれの場合にも、ボーナスはサラリーマン世帯をポジティブな気持ちにさせてくれるものなのでしょう。

- 年代別に見ると、「喜」は若い人ほど多く《20代》(39.2%)ではほぼ4割を占めて最も多くなっています。一方、「平常心」は年齢の高い人ほど多く、《50代》(42.4%)では4割を超えています。若い主婦はボーナスをもらって喜んでいるのに対して、ベテラン主婦は“悟っている”ということでしょうか。
- ボーナス受給額別に見ると、《100万円以上》では、「楽」(35.0%)が最も多いのに対して、《50万円未満》では「哀」(16.3%)が2割弱あげられ他の層を上回っています。

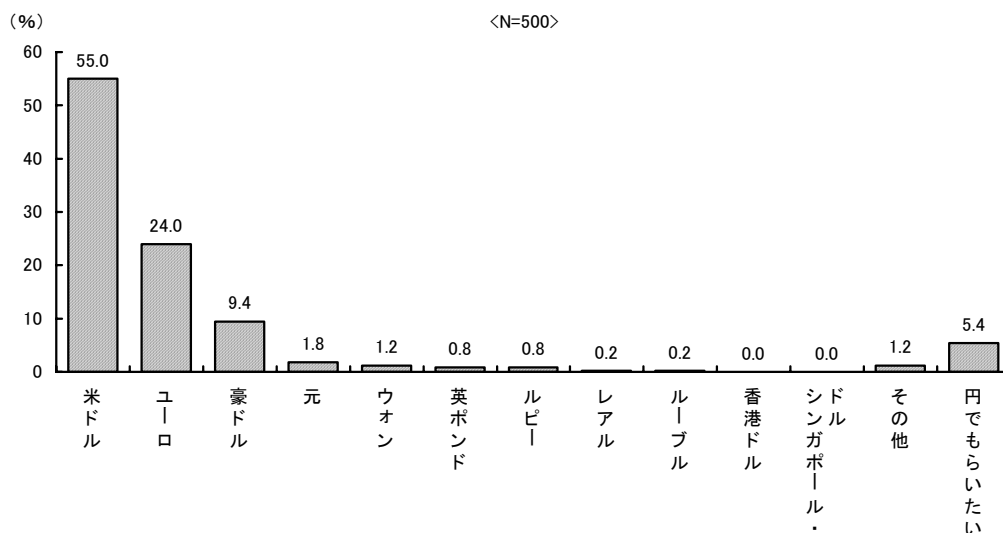
なお、用意された6つの顔文字ではその時の気持ちを表しきれないという人は、次のような顔文字を作りました。

あともう少し..	(¯ ¯ ¯)
支給額の割に控除が多すぎる！！	<(^ ^)>
驚き	Σ(° ¯ °)
旦那さんお疲れ様です	(´ ▽ `)
はあー	o(´ □ `o)
たのしみ	(^ - ^)
支給されただけでよし	(^ - ^;))

3. ボーナスを外貨でもらう場合どの通貨で欲しいか

「米ドル」(55.0%) が最も多く、次いで「ユーロ」(24.0%)、「豪ドル」(9.4%)。それ以外はいずれもごくわずか。

図8. ボーナスを外貨でもらう場合どの通貨で欲しいか



属性	米ドル	ユーロ	豪ドル	元	ウォン	英ポンド	ルビィ	レアル	ルーブル	香港ドル	シンガポール	その他	円でもらいたい
年代													
20代 <n=125>	57.6	21.6	10.4	0.8	1.6	1.6	0.8	-	-	-	-	2.4	3.2
30代 <n=125>	56.8	24.8	10.4	1.6	-	-	0.8	-	-	-	-	0.8	4.8
40代 <n=125>	57.6	21.6	3.2	3.2	0.8	0.8	1.6	-	0.8	-	-	0.8	9.6
50代 <n=125>	48.0	28.0	13.6	1.6	2.4	0.8	-	0.8	-	-	-	0.8	4.0
ボーナス額													
50万円未満 <n=147>	55.8	20.4	8.2	2.7	1.4	2.0	1.4	-	-	-	-	2.0	6.1
50~100万円未満 <n=216>	56.0	22.2	11.1	1.4	0.9	-	0.5	-	0.5	-	-	0.9	6.5
100万円以上 <n=137>	52.6	30.7	8.0	1.5	1.5	0.7	0.7	0.7	-	-	-	0.7	2.9

もしボーナスを外貨でもらうことになったら、どこの国の通貨でもらいたいか聞きました。最も多いのは「米ドル」(55.0%)で半数以上を占めています。次いで「ユーロ」(24.0%)、「豪ドル」(9.4%)の順となっており、そのほかいずれもごくわずかです。なお、「その他」として「ニュージーランド・ドル」(4人)、「カナダ・ドル」「バーツ(タイ)」(各1人)、また「どうしても円でもらいたい」(27人)という人もいました。

- いずれの属性で見ても、ほとんど違いは見られません。

4. ボーナスをその外貨で欲しい理由

外貨でもらう条件は“国際的な通貨として使いやすい”か“外貨預金に適している”。
米ドルは“国際通貨として利用しやすい”、ユーロは“安定”と“為替レートよさ”。

表1. ボーナスをその外貨で欲しい理由

順位	内容	件数
1	旅行で行ってみたい・行く機会が多い	81
2	安定している	71
3	為替レートが上がりそう	38
4	国際通貨として強い	35
5	世界基準の通貨	32
6	世界中いろいろな国で使える	29
7	為替レートが今上がっている	27
8	使いやすい	21
9	外貨預金の金利が高い	20
10	なじみがある	15
11	安心感がある	8
〃	よく知られている	8
13	為替相場がわかりやすい	6
〃	とりあえず無難	6
〃	経済が好調	6
〃	外貨預金に適している	6
17	円に交換しやすい	5
〃	運用・投資したい外貨	5
19	ヨーロッパが好き	4
〃	将来住みたい	4
21	外貨での支払いに充てられる	2
〃	子どもが留学している	2

どうしてその通貨で欲しいのか、その理由を聞いてみました。

最も多いのは「旅行で行きたい・行く機会が多い」(81件)で、次いで「安定している」(71件)が多くあげられています。以下、「為替レートが上がりそう」(38件)、「国際通貨として強い」(35件)、「世界基準の通貨」(32件)、「世界中のいろいろな国で使える」(29件)、「為替レートが今上がっている」(27件)、「使いやすい」(21件)、「外貨預金の金利が高い」(20件)などが続いています。

このように、“国際的な通貨として使いやすい”こと、金利がよく安定しているといった“外貨預金に適している”ことが外貨でもらう条件となっているようです。

表2. 通貨別に見た、ボーナスをその外貨で欲しい理由

通貨	順位	内容	件数	通貨	順位	内容	件数
米ドル	1	旅行で行ってみたい・行く機会が多い	40	豪ドル	1	外貨預金の金利が高い	10
	2	安定している	33		2	安定している	10
	3	国際通貨として強い	25		3	旅行で行ってみたい・行く機会が多い	9
	4	世界中いろいろな国で使える	24		4	為替レートが上がりそう	8
	5	使いやすい	20		5	国際通貨として強い	2
	6	世界基準の通貨	15		6	為替レートが今上がっている	1
	7	なじみがある	15		7	外貨預金に適している	1
	8	よく知られている	8		8	運用・投資したい外貨	1
	9	安心感がある	7		9	将来住みたい	1
	10	とりあえず無難	6		元(中国)	1	為替レートが上がりそう
	11	為替相場がわかりやすい	6	2		経済が好調	1
	12	為替レートが上がりそう	5	3		旅行で行ってみたい・行く機会が多い	1
	13	為替レートが今上がっている	5	ウォン(韓国)	1	旅行で行ってみたい・行く機会が多い	4
	14	円に交換しやすい	5		2	為替レートが上がりそう	1
	15	外貨預金の金利が高い	4	英ポンド	1	為替レートが上がりそう	1
	16	外貨預金に適している	4		2	為替レートが今上がっている	1
	17	将来住みたい	2		3	外貨預金の金利が高い	1
	18	外貨での支払いに充てられる	2		4	旅行で行ってみたい・行く機会が多い	1
	19	運用・投資したい外貨	1	ルピー(インド)	1	為替レートが上がりそう	3
20	子どもが留学している	1	2		経済が好調	1	
ユーロ	1	安定している	27	NZドル	1	外貨預金の金利が高い	1
	2	旅行で行ってみたい・行く機会が多い	23		2	運用・投資したい外貨	1
	3	為替レートが今上がっている	20		3	安定している	1
	4	為替レートが上がりそう	14		4	将来住みたい	1
	5	国際通貨として強い	8		カナダドル	経済が好調	1
	6	世界中いろいろな国で使える	5	バーツ(タイ)	旅行で行ってみたい・行く機会が多い	1	
	7	ヨーロッパが好き	4	リアル(ブラジル)	外貨預金の金利が高い	1	
	8	外貨預金の金利が高い	3	ルーブル(ロシア)	為替レートが上がりそう	1	
	9	経済が好調	3				
	10	外貨預金に適している	1				
	11	運用・投資したい外貨	1				
	12	使いやすい	1				
	13	世界基準の通貨	1				
	14	子どもが留学している	1				
	15	安心感がある	1				

さらに、ボーナスをその通貨で欲しい理由を通貨別に整理したものが表2です。

<米ドル>では「旅行で行ってみたい・行く機会が多い」(40件)の“自分で使う”理由が最も多くあげられており、次いで「安定している」(33件)の順となっています。また、「国際通貨として強い」(25件)、「世界中いろいろな国で使える」(24件)、「使いやすい」(20件)、「世界基準の通貨」(15件)など“国際通貨として利用しやすい”ことも多くあげられています。

<ユーロ>では「安定している」(27件)が最も多く、次いで「旅行で行ってみたい・行く機会が多い」(23件)の順となっています。また、「為替レートが今上がっている」(20件)、「為替レートが上がりそう」(14件)も多くあげられています。これは、調査が6月中旬のユーロ高が続いている時期に行われたことが影響していると考えられますが、世の主婦は、国際情勢になかなか明るいようです。

<オーストラリア・ドル>では「外貨預金の金利が高い」と「安定している」(各10件)が最も多くなっています。そのほか、「旅行で行ってみたい・行く機会が多い」(9件)、「為替レ

ートが上がりそう」(8件)も多くあげられています。

そのほか、BRICsの<元(中国)>、<ルピー(インド)>では「為替レートが上がりそう」(5件、3件)が最も多い理由となっています。

〔3〕ボーナスにまつわる話

1. 臨時ボーナスをあげたいと思う人

スポーツ界は「石川遼」(58件)「斎藤佑樹」(52件)「田中将大」(34件)の“若い力”、芸能界は「陣内智則」(33件)「藤原紀香」(12件)夫妻、政財界は「東国原英夫」(38件)。

表3. 臨時ボーナスをあげたい人、トップ10

芸能界			スポーツ界			政財界		
順位	名前	件数	順位	名前	件数	順位	名前	件数
1	陣内智則	33	1	石川遼	58	1	東国原英夫	38
2	藤原紀香	12	2	斎藤佑樹	52	2	安倍晋三	17
3	タカ・アンド・トシ	7	3	田中将大	34	3	小泉純一郎	5
4	みのもんた	6	4	イチロー	29	4	長妻昭	4
〃	松本人志	6	5	桑田真澄	24	※複数回答は上記4人のみ		
6	明石家さんま	5	6	浅田真央	8			
7	タモリ	4	7	松井秀喜	7			
〃	ムーディ勝山	4	〃	中村俊輔	7			
9	藤原紀香&陣内智則	3	9	岡島秀樹	6			
〃	玉木宏	3	10	松坂大輔	5			
〃	篠原涼子	3						
〃	菊地凜子	3						

今年これまでに大いに活躍している人やグループで、臨時ボーナスをあげたいと思う人を芸能界、スポーツ界、政財界の3分野から自由にあげてもらいました。

芸能界では「陣内智則」(33件)が断然トップで、第2位にはその妻である「藤原紀香」(12件)がランクされています。また「陣内智則&藤原紀香夫妻」(3件)との回答もあり、芸能界ではこの2人に尽きるといった感があります。

スポーツ界では「石川遼」(58件)、「斎藤佑樹」(52件)、「田中将大」(34件)の“若い力”がトップ3を占めています。第4位には申し分のない実績を誇る「イチロー」(29件)があげられ、第5位には挑戦し続けるオールドパワーの代表ともいえるべき「桑田真澄」(24件)がランクされています。女性は全般にふるわず、トップ10のなかで「浅田真央」(8件)が唯一ひとり6位にあげられているだけです。ちなみに競技別に見ると野球選手が断然多く、トップ10に7人がランクされています。

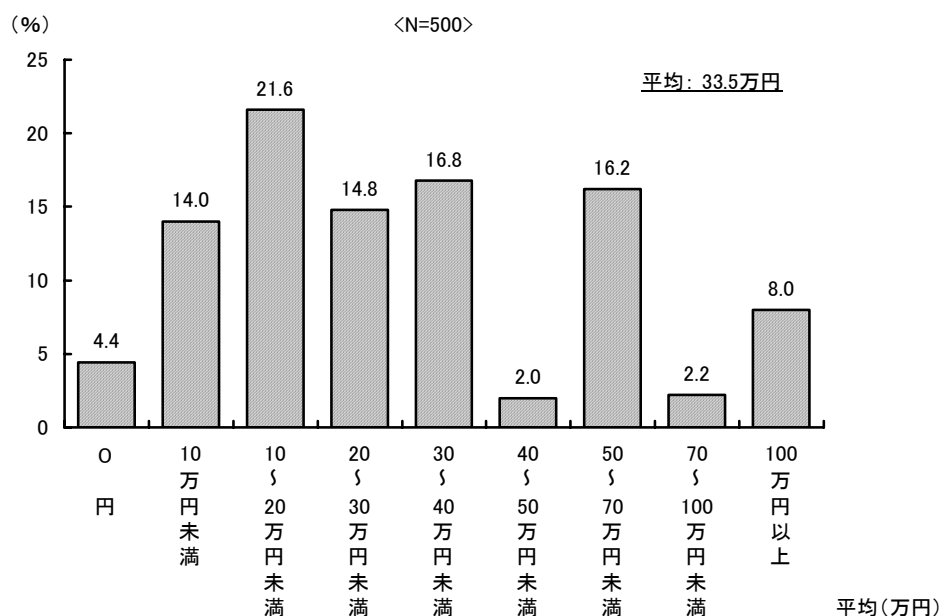
政財界では全般にあげられている人が非常に少なく、「東国原英夫」(38件)が唯一ひとり面目躍如するにとどまっています。複数の人からあげられている政治家はわずか4人、財界では0人という惨憺たる結果です。

2. 主婦としての働きに対してもらうボーナスの適当な金額

「10～20万円未満」(21.6%)が最も多く、次いで「30～40万円未満」(16.8%)、「50～70万円未満」(16.2%)。平均は33.5万円。

◆年齢が高い人、ボーナス受給額が高額な人ほど自分のボーナス額も高く回答。

図9. 主婦としての働きに対してもらうボーナスの適当な金額



年代	平均(万円)										
	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>	50万円未満 <n=147>	50～100万円未満 <n=216>	100万円以上 <n=137>	平均			
20代 <n=125>	0.8	30.4	30.4	16.0	9.6	1.6	5.6	0.8	4.8	23.8	
30代 <n=125>	7.2	12.8	25.6	20.8	15.2	1.6	8.8	0.8	7.2	26.1	
40代 <n=125>	6.4	9.6	16.8	10.4	20.8	2.4	22.4	2.4	8.8	34.3	
50代 <n=125>	3.2	3.2	13.6	12.0	21.6	2.4	28.0	4.8	11.2	49.7	
ボ ス ノ 額	50万円未満 <n=147>	4.1	23.1	38.1	15.0	8.8	1.4	5.4	-	4.1	18.3
	50～100万円未満 <n=216>	6.0	13.4	16.7	19.9	25.0	2.8	11.6	1.4	3.2	27.6
	100万円以上 <n=137>	2.2	5.1	11.7	6.6	12.4	1.5	35.0	5.8	19.7	59.1

自分自身の主婦としての働きに対してボーナスをもらおうとしたら、その金額はいくらぐらいがふさわしいと思うか、具体的な金額をあげてもらいました。

最も多いのは「10～20万円未満」(21.6%)で、以下「30～40万円未満」(16.8%)、「50～70万円未満」(16.2%)、「20～30万円未満」(14.8%)、「10万円未満」(14.0%)が続いています。また、「100万円以上」との回答も8.0%ありますが、その一方で「0円(もらう資格がない)」も4.4%あり、主婦としての仕事ぶりに対する評価は千差万別です。

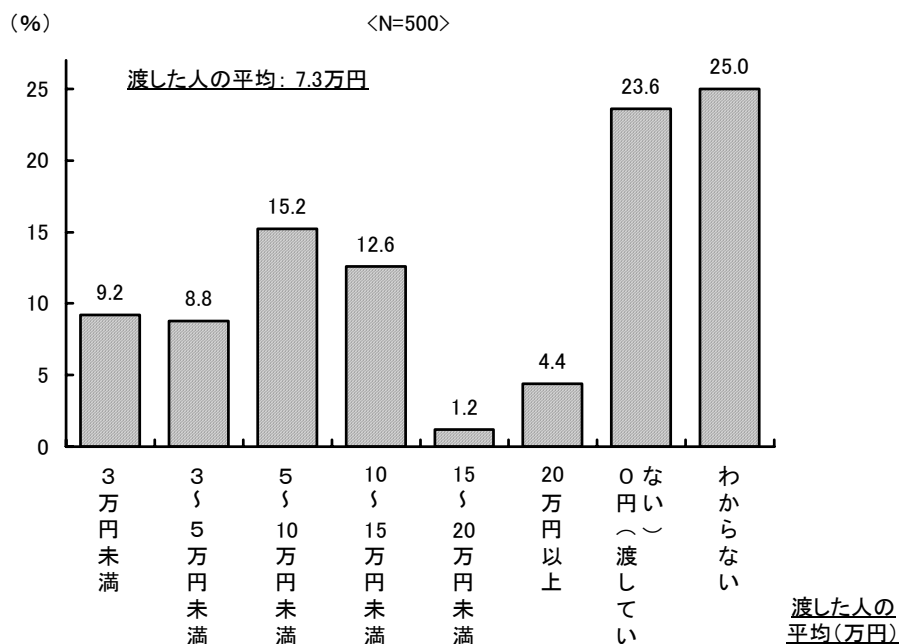
平均は33.5万円です。今回のボーナスの平均手取額は77.9万円でしたから、平均金額で見ると43%に当たります。ボーナスの半分近くは“主婦の力”によるものと考えているようです。

- 年代別に平均金額を見ると、年齢が高い人ほど高額をあげています。《20代》は23.8万円ですが、《30代》は26.1万円、《40代》は34.3万円、《50代》は49.7万円となっています。
- ボーナス受給額別に見ると、受給額が高額な人ほど自分のボーナス額も高く答えています。《50万円未満》は18.3万円ですが、《50～100万円未満》は27.6万円、《100万円以上》では59.1万円となっています。

3. ボーナスの中から夫に渡した小遣い

「渡した」(51.4%)という人は全体のほぼ半数で、「渡さない」(23.6%)は2割強。渡した金額は「5～10万円未満」(15.2%)が最も多く、平均は7.3万円。
 ◆年齢が高い人、ボーナス受給額が高い人ほど小遣いも高額。

図10. ボーナスの中から夫に渡した小遣い



年代	20代 <n=125>	16.8	12.8	16.8	6.4	-	-	24.0	23.2	4.1
	30代 <n=125>	12.0	8.0	20.0	9.6	-	-	30.4	20.0	4.9
	40代 <n=125>	4.0	10.4	12.8	12.0	3.2	4.8	23.2	29.6	7.8
	50代 <n=125>	4.0	4.0	11.2	22.4	1.6	12.8	16.8	27.2	12.1
ボーナス額	50万円未満 <n=147>	20.4	13.6	9.5	2.7	-	1.4	34.7	17.7	3.6
	50～100万円未満 <n=216>	7.4	9.7	21.8	13.4	0.9	1.9	19.4	25.5	6.3
	100万円以上 <n=137>	-	2.2	10.9	21.9	2.9	11.7	18.2	32.1	13.0

一方、この夏のボーナスの中から、ご主人に小遣いとしていくら渡した（渡そうと思っている）のか、その金額を聞きました。

まず、「渡した」(51.4%)という人は全体のほぼ半数で、「渡さない」(23.6%)は2割強となっています。なお、「わからない」(25.0%)との回答も2割強あります。

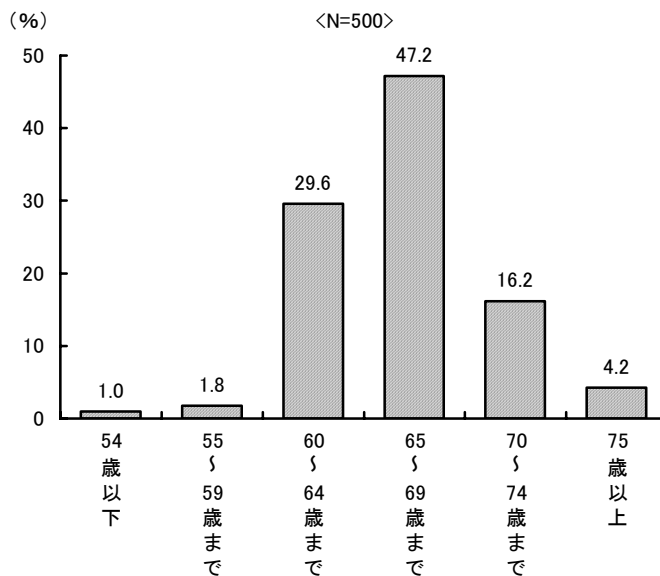
“渡した（渡す予定）”と回答した主婦がご主人に渡した金額を見ると、「5～10万円未満」(15.2%)が最も多く、以下「10～15万円未満」(12.6%)、「3万円未満」(9.2%)、「3～5万円未満」(8.8件)の順となっています。渡したという人の平均は7.3万円です。

- 年代別に平均金額を見ると、年齢が高い人ほど高額となっており、「20代」が4.1万円、「30代」が4.9万円、「40代」が7.8万円であるのに対して、「50代」は12.1万円です。
- ボーナス受給額別に平均金額を見ると、受給額が高い人ほど小遣いも高額で、「50万円未満」は3.6万円、「50～100万円未満」は6.3万円ですが、「100万円以上」では13.0万円となっています。

4. 夫に働いて欲しいと思っている年齢

「65～69歳まで」(47.2%)が半数弱を占め、次いで「60～64歳まで」(29.6%)。
 ◆《20代》は「65～69歳まで」(47.2%)と「60～64歳まで」(41.6%)が拮抗するが、30代以上は「60～64歳まで」は2割強。逆に「70～74歳まで」が年齢とともに増える。

図11. 夫に何歳くらいまで働いて欲しいと思っているか



年代	20代 <n=125>	1.6	4.0	41.6	47.2	3.2	2.4
	30代 <n=125>	2.4	1.6	26.4	49.6	16.0	4.0
	40代 <n=125>	-	1.6	23.2	45.6	21.6	8.0
	50代 <n=125>	-	-	27.2	46.4	24.0	2.4
夫役の職	役職なし <n=187>	2.1	2.1	34.8	45.5	11.8	3.7
	係長・主任クラス <n=132>	0.8	3.0	28.8	50.8	12.1	4.5
	課長クラス以上 <n=181>	-	0.6	24.9	46.4	23.8	4.4
住ロ モン	ある <n=233>	0.4	0.4	24.0	50.6	20.2	4.3
	ない <n=267>	1.5	3.0	34.5	44.2	12.7	4.1

サラリーマン世帯の主婦は夫に何歳くらいまで働いて欲しいと考えているのでしょうか。夫に働いて欲しいと思っている年齢を聞きました。

最も多いのは「65～69歳まで」(47.2%)で、半数弱を占めています。次いで「60～64歳まで」(29.6%)が多くあげられていますが、「70～74歳まで」(16.2%)も少なくありません。

ちなみに、平均は64.6歳です。

- 年代別に見ると、《20代》は「65～69歳まで」(47.2%)と「60～64歳まで」(41.6%)が拮抗していますが、それ以上の年代はいずれも「65～69歳まで」が中心で、「60～64歳まで」は2割強にとどまっています。また、「70～74歳まで」は年齢が高くなるとともに多くなっています。若い頃は早く解放してあげようと思っていたのが、年齢とともにもっと働いて欲しいと考えるようになるのでしょうか。

5. その年齢まで働いて欲しいと思う理由

「年金が支給されるまで」(115件)「長く働いている方が元気でいられる、ぼけない、老け込まない、いきいきしている」(86件)「会社の定年まで」(72件)がトップ3。

表4. その年齢まで働いて欲しいと思う理由

順位	内容	件数
1	年金が支給されるまで	115
2	長く働いている方が元気でいられる、ぼけない、老け込まない、いきいきしている	86
3	会社の定年まで	72
4	子どもが大きくなるまで、独立するまで	30
5	そのくらいまでは元気に働けると思う	26
6	生活のためしっかり稼いでもらわないと困る	24
7	早く引退して二人でのんびりしたい	23
8	ローンが終わるまで	19
9	老後の蓄えをしっかり稼いでもらわないと困る	17
10	家にいられるとわずらわしい	15
11	この年齢(60歳)まで働いてくれれば十分	9
12	年金は当てにならない	8
〃	本人が望んでいるうちは働いてもらう	8
14	平均的な引退の年齢だから	7
15	元気なうちは働いて欲しい	6
16	早く引退して身軽にしてあげたい	5
17	年金だけでは暮らせない	3
〃	生涯現役で働けばいい	3
19	自分の年金が支給されるまで	2

次に、どうしてその年齢まで働いて欲しいのか、その理由を自由にあげてもらいました。

「年金が支給されるまで」(115件)が最も多く、次いで「長く働いている方が元気でいられる、ぼけない、老け込まない、いきいきしている」(86件)、「会社の定年まで」(72件)の順となっています。

そのほか、「子どもが大きくなるまで、独立するまで」(30件)、「そのくらいまでは元気に働けると思う」(26件)、「生活のためしっかり働いてもらわないと困る」(24件)、「ローンが終わるまで」(19件)、「老後の蓄えをしっかり稼いでもらわないと困る」(17件)、「家にいられるとわずらわしい」(15件)などがあげられています。

その一方で、「早く引退してふたりでのんびり暮らしたい(60歳が多い、他に65歳、55歳など)」(23件)、「この年齢まで働いてくれれば十分(大半が60歳)」(9件)と、早めの年齢を上げる人も多くいます。

また、最近の年金問題を受けてのことなのか、「年金は当てにならない」(8件)、「年金だけでは暮らせない」(3件)といった内容もあげられています。

表5. 働いて欲しい年齢別に見た、その年齢まで働いて欲しいと思う理由

年 齢	順位	内 容	件数
59歳まで	1	早く引退して二人でのんびりしたい	6
	2	子どもが大きくなるまで、独立するまで	3
	3	老後の蓄えをしっかりと稼いでもらわないと困る	2
	4	会社の定年まで	1
60～64歳	1	会社の定年まで	53
	2	年金が支給されるまで	15
	3	早く引退して二人でのんびりしたい	14
	4	子どもが大きくなるまで、独立するまで	11
	5	長く働いている方が元気でいられる、ぼけない、老け込まない、いきいきしている	10
	6	この年齢まで働いてくれれば十分	8
	7	生活のためしっかりと稼いでもらわないと困る	6
	8	早く引退して身軽にしてあげたい	5
	9	平均的な引退の年齢だから	4
	〃	老後の蓄えをしっかりと稼いでもらわないと困る	4
	11	そのくらいまでは元気に働けると思う	3
	12	ローンが終わるまで	2
	〃	本人が望んでいるうちは働いてもらう	2
	14	家にいられるとわずらわしい	1
〃	元気なうちは働いて欲しい	1	
65～69歳	1	年金が支給されるまで	96
	2	長く働いている方が元気でいられる、ぼけない、老け込まない、いきいきしている	41
	3	会社の定年まで	18
	4	そのくらいまでは元気に働けると思う	13
	5	ローンが終わるまで	12
	6	子どもが大きくなるまで、独立するまで	10
	〃	生活のためしっかりと稼いでもらわないと困る	10
	8	老後の蓄えをしっかりと稼いでもらわないと困る	7
	9	家にいられるとわずらわしい	5
	10	本人が望んでいるうちは働いてもらう	4
	11	平均的な引退の年齢だから	3
	〃	元気なうちは働いて欲しい	3
	13	早く引退して二人でのんびりしたい	2
	14	自分の年金が支給されるまで	1
〃	年金は当てにならない	1	
〃	この年齢まで働いてくれれば十分	1	
〃	生涯現役で働けばいい	1	

次ページに続く

年 齢	順位	内 容	件数
70～74歳	1	長く働いている方が元気でいられる、ぼけない、老け込まない、いきいきしている	28
	2	そのくらいまでは元気に働けると思う	9
	3	家にいられるとわずらわしい	7
	4	年金は当てにならない	6
	〃	生活のためしっかり稼いでもらわないと困る	6
	6	子どもが大きくなるまで、独立するまで	5
	7	年金が支給されるまで	4
	〃	ローンが終わるまで	4
	〃	老後の蓄えをしっかり稼いでもらわないと困る	4
	10	年金だけでは暮らせない	2
	〃	元気なうちは働いて欲しい	2
	12	本人が望んでいるうちは働いてもらう	1
75歳以上	1	長く働いている方が元気でいられる、ぼけない、老け込まない、いきいきしている	7
	2	家にいられるとわずらわしい	2
	〃	生活のためしっかり稼いでもらわないと困る	2
	〃	生涯現役で働けばいい	2
	5	自分の年金が受給されるまで	1
	〃	年金は当てにならない	1
	〃	子どもが大きくなるまで、独立するまで	1
	〃	ローンが終わるまで	1
	〃	早く引退して二人でのんびりしたい	1
	〃	そのくらいまでは元気に働けると思う	1
	〃	本人が望んでいるうちは働いてもらう	1

さらに、その年齢まで働いて欲しい理由を働いて欲しいと思っている年齢別に整理したものが表5です。

<65～69歳>では「年金が支給されるまで」(96件)が断然多くなっています。また、「長く働いている方が元気でいられる、ぼけない、老け込まない、いきいきしている」(41件)が多くあげられています。さらに、「会社の定年まで」(18件)も第3位と少なくありません。“65歳定年制”の企業が増えてきているのでしょうか。

<60～64歳>では「会社の定年まで」(53件)が最も多く群を抜いています。

<70～74歳><75歳以上>では「長く働いている方が元気でいられる、ぼけない、老け込まない、いきいきしている」(28件、7件)が最も多くなっています。

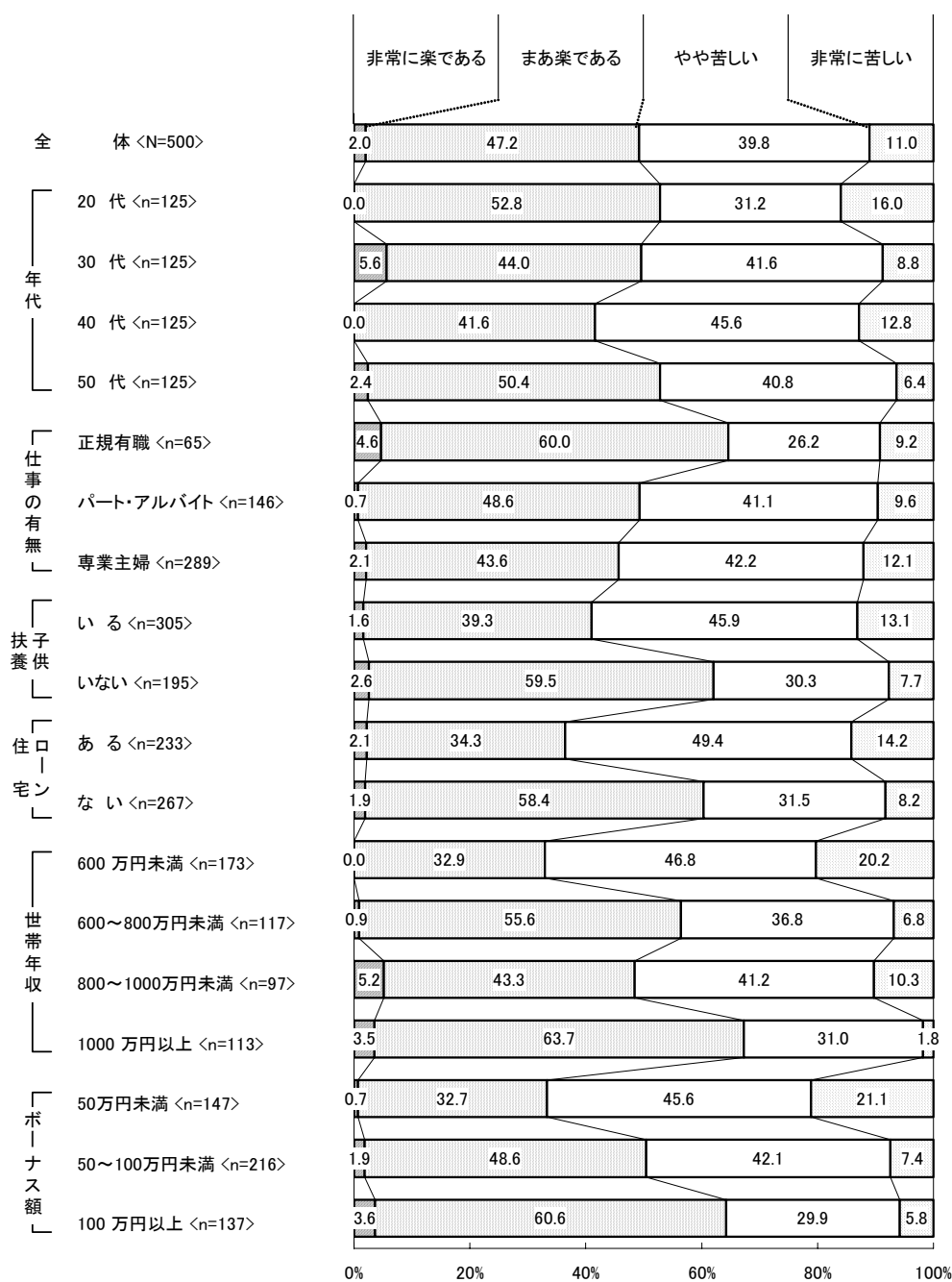
一方、<59歳まで>では「早く引退してのんびりしたい」(6件)がトップです。

[4] わが家の家計

1. 現状での家計の苦しさ

“楽である” (49.2%) と “苦しい” (50.8%) が拮抗するも、“苦しい” が上回る。
 ◆妻が《正規有職》は“楽である” (64.6%) が6割を超えるが、《専業主婦》《パート》では
 “苦しい” (54.3%、50.7%) が半数強。

図12. 現状で家計が苦しいと感じるか



家計をやりくりしている主婦は、現在の家計を苦しいと感じているのでしょうか。サラリー

マン世帯の家計の現状について聞きました。

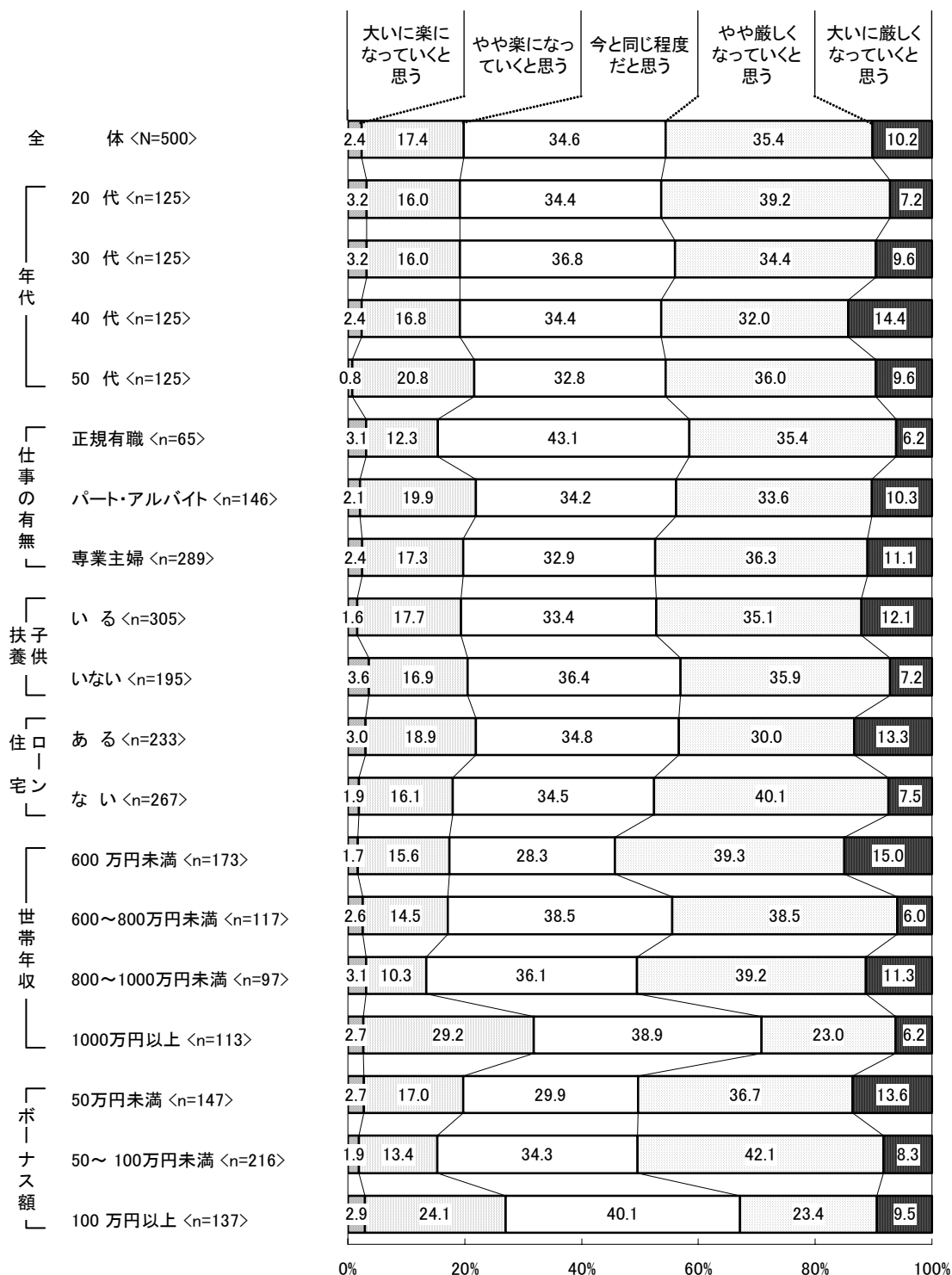
「まあ楽である」(47.2%)が半数近いものの、「非常に楽である」(2.0%)はごくわずかで、両者をあわせた“楽である”(49.2%)は半数弱となっています。一方、「非常に苦しい」(11.0%)は1割を超え、「やや苦しい」(39.8%)もほぼ4割を占めており、両者をあわせると“苦しい”(50.8%)がわずかですが半数を上回っています。

- 年代別に見ると、《20代》《50代》は“楽である”(各52.8%)が半数を超え“苦しい”(各47.2%)を上回っていますが、《40代》《30代》は“苦しい”(58.4%、50.4%)が半数を超えています。
- 妻の職業別に見ると、《正規有職》は“楽である”(64.6%)が6割を超えており、“苦しい”(35.4%)を大きく上回っています。一方、《専業主婦》《パート》は“苦しい”(54.3%、50.7%)が半数を超えており、“楽である”(45.7%、49.3%)を上回っています。
- 扶養中の子どもの有無別に見ると、《いない人》では“楽である”(62.1%)が6割を超えています。一方、《いる人》では“楽である”(40.9%)は4割にとどまり、“苦しい”(59.0%)がほぼ6割を占めています。
- 住宅ローンの有無別に見ると、《ローンのない人》では“楽である”(60.3%)が6割を占め“苦しい”(39.7%)は4割にとどまっていますが、《ローンのある人》では“苦しい”(63.6%)が6割を超え、“楽である”(36.4%)を大きく上回っています。
- 世帯年収別に見ると、《1,000万円以上》では“楽である”(67.2%)が7割弱を占めており、“苦しい”(32.8%)は3割強にすぎないが、《600万円未満》では7割弱が“苦しい”(67.0%)と回答しています。一方、《600～800万円未満》は“楽である”(56.5%)が半数を超えているのに対して、《800～1,000万円未満》(48.5%)では半数に満たなく、“苦しい”(51.5%)が半数を超えているというように逆転しています。
- ボーナス受給額別に見ると、《50万円未満》は7割近くが“苦しい”(66.7%)と答えており、“楽である”(33.4%)は3割強にすぎません。《50～100万円未満》は“楽である”(50.5%)と“苦しい”(49.5%)がともにほぼ半数ずつで二分されています。一方、《100万円以上》は“楽である”(64.2%)が6割を超えており、“苦しい”(35.7%)は3割強にとどまっています。

2. 今後の家計の見通し

“厳しくなっていく” (45.6%) が4割を超え、“楽になっっていく” (19.8%) は2割弱。
 ◆世帯年収が《1,000万円以上》は“楽になっっていく” (31.9%) が“厳しくなっっていく” (29.2%) を上回るが、そのほかの層では“楽になっっていく” は1割強。

図13. 今後の家計の見通し



では、今後の家計の見通しについてはどのように考えているのでしょうか。

「やや厳しくなっていくと思う」(35.4%) が最も多く、「大いに厳しくなっていくと思う」(10.2%) も1割となっており、両者を合わせると“厳しくなっていくと思う”(45.6%) が4割を超えます。一方、「大いに楽になっていくと思う」(2.4%) はごくわずかで、「やや楽になっていくと思う」(17.4%) をあわせても“楽になっていくと思う”(19.8%) は2割を下回っています。なお、「今と同じ程度だと思う」(34.6%) は3割強となっています。

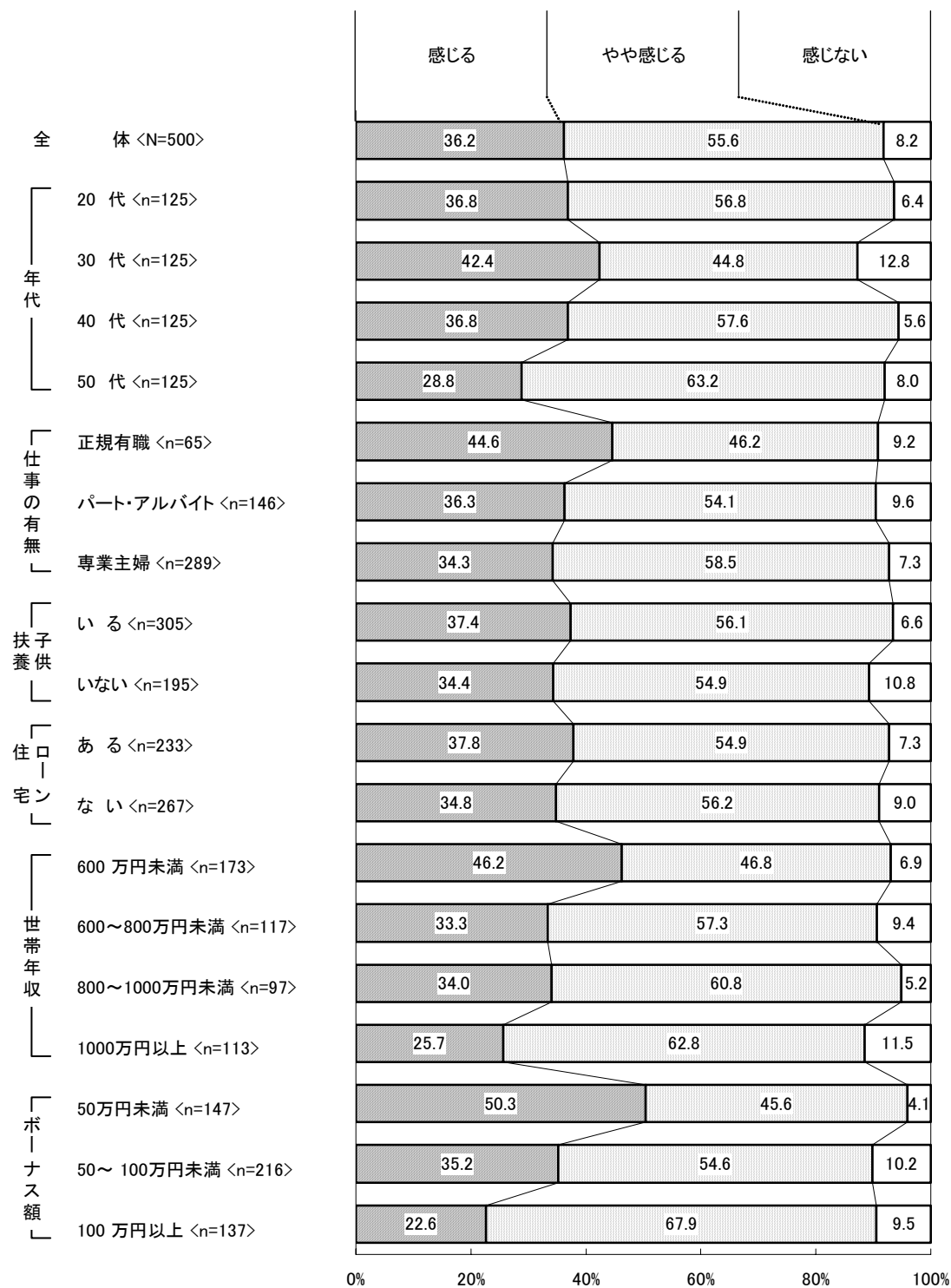
- 世帯年収別に見ると、《1,000万円以上》は“楽になっていくと思う”(31.9%) が3割を超えており、“厳しくなっていくと思う”(29.2%) を上回っていますが、そのほかの層はすべて“楽になっていくと思う”は1割強にとどまっています。

3. 支出や資産運用見直しの必要性

「感じる」(36.2%) が3割強、「やや感じる」(55.6%) が半数強と、「感じる」(91.8%) が9割を占める。

◆いずれの属性でも「感じる」と「やや感じる」が圧倒的。

図14. 支出や資産運用の見直しが必要だと感じるか



家計の中で支出や資産運用などの見直しが必要だと主婦が感じているかどうかを聞きました。

「感じる」(36.2%)が3割を超え、「やや感じる」(55.6%)も半数を超えており、あわせると“感じる”(91.8%)が9割以上を占め、「感じない」(8.2%)はごくわずかです。

- いずれの属性で見ても「感じる」と「やや感じる」が圧倒的で「感じない」は僅かです。
- 「感じる」と「やや感じる」の割合では、ボーナス受給額別に見ると低額の人ほど「感じる」が多く、《50万円未満》(50.3%)では半数を占めていますが、《50～100万円未満》(35.2%)では3割強、《100万円以上》(22.6%)では2割強にとどまっています。

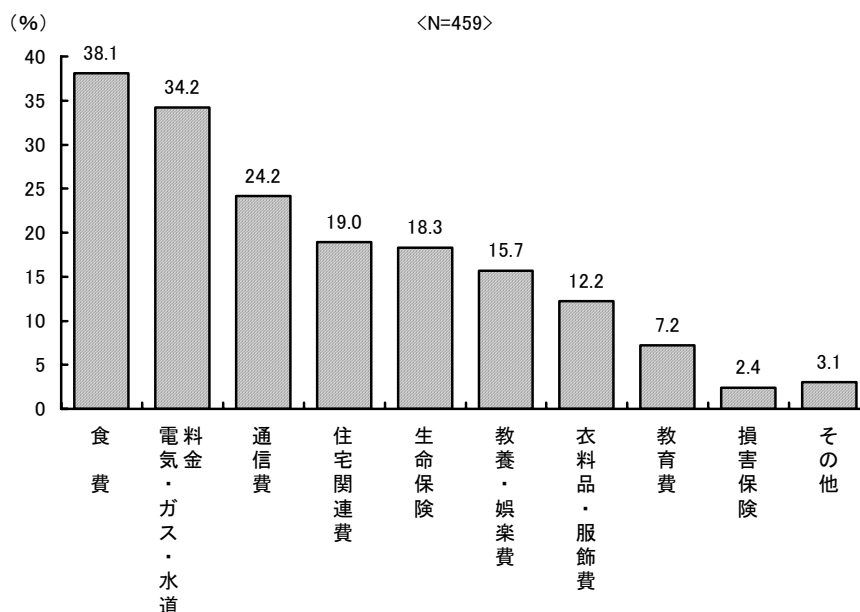
4. 支出や資産運用を見直したい費目

押さえない支出は「食費」(38.1%)「電気・ガス・水道料金」(34.2%)がトップ2。増やしたい資産は「預貯金」(86.1%)が圧倒的。

◆押さえない支出で「食費」は《30代》《20代》(45.9%、43.6%)にとりわけ多い。

(1) 支出を押さえない費目

図15. 家計の中でとりわけ支出を抑えたいもの【2つ以内】(見直しが必要と感じる人のみ)



属性	年代	食費	電気・ガス・水道	通信費	住宅関連費	生命保険	教養・娯楽費	衣料品・服飾費	教育費	損害保険	その他
年代	20代 <n=117>	43.6	33.3	29.1	21.4	15.4	17.1	7.7	2.6	0.9	3.4
	30代 <n=109>	45.9	45.0	21.1	19.3	14.7	17.4	8.3	1.8	1.8	3.7
	40代 <n=118>	36.4	28.8	20.3	19.5	17.8	15.3	14.4	14.4	2.5	3.4
	50代 <n=115>	27.0	30.4	26.1	15.7	25.2	13.0	18.3	9.6	4.3	1.7
扶子養供	いる <n=285>	38.2	37.2	24.6	19.3	17.2	16.8	10.2	8.4	1.8	3.2
	いない <n=174>	37.9	29.3	23.6	18.4	20.1	13.8	15.5	5.2	3.4	2.9
住ロ一メン	ある <n=216>	38.0	35.2	19.9	28.2	13.9	17.1	9.7	8.8	1.4	3.2
	ない <n=243>	38.3	33.3	28.0	10.7	22.2	14.4	14.4	5.8	3.3	2.9
世帯年収	600万円未満 <n=161>	47.2	39.8	24.8	16.1	16.1	17.4	8.7	3.1	1.9	5.6
	600~800万円未満 <n=106>	34.0	33.0	23.6	19.8	22.6	17.0	14.2	8.5	1.9	1.9
	800~1000万円未満 <n=92>	39.1	37.0	23.9	23.9	18.5	7.6	12.0	8.7	2.2	3.3
	1000万円以上 <n=100>	27.0	24.0	24.0	18.0	17.0	19.0	16.0	11.0	4.0	-
ポスト額ナ	50万円未満 <n=141>	50.4	31.2	27.7	21.3	17.7	17.0	7.8	3.5	1.4	2.8
	50~100万円未満 <n=194>	34.5	38.1	22.7	18.0	18.6	13.9	13.9	7.2	3.1	4.1
	100万円以上 <n=124>	29.8	31.5	22.6	17.7	18.5	16.9	14.5	11.3	2.4	1.6

では、<家計を見直したい>と答えた主婦は具体的に家計の中のどの部分を見直したいと考えているのでしょうか。まず、支出を抑えたい費目が何かを聞きました。

最も多いのは「食費」(38.1%)で、次いで「電気・ガス・水道料金」(34.2%)の順となっています。以下、「通信費」(24.2%)、「住宅関連費」(19.0%)、「生命保険」(18.3%)、「教養・娯楽費」(15.7%)が続いています。

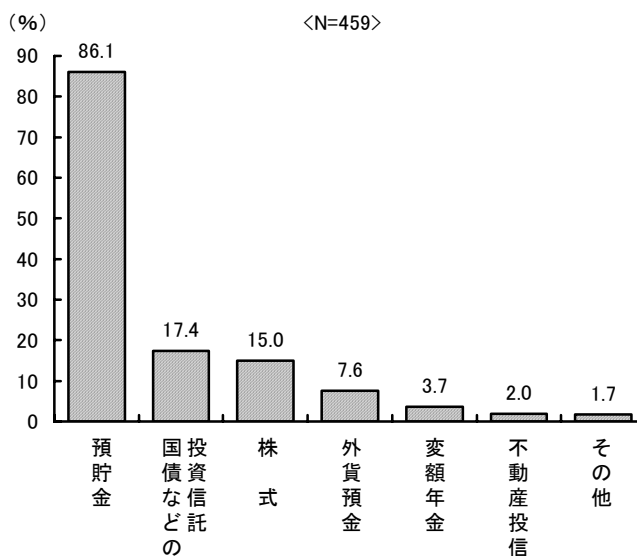
●年代別に見ると、「食費」は《30代》《20代》(45.9%、43.6%)がとりわけ多く、「電気・ガス・

水道料金」も《30代》(45.0%)が他の年代を圧倒しています。一方、「生命保険」や「衣料品・服飾費」は、割合は低いですが、年齢の高い人ほど多く《50代》(25.2%、18.3%)が他の年代を上回っています。

- 住宅ローンの有無別に見ると、「住宅関連費」は《ローンのある人》(28.2%)が3割弱あげており《ローンのない人》(10.7%)を上回っています。
- 世帯年収別に見ると、「食費」は《600万円未満》(47.2%)がとりわけ多く、他の層を大きく上回っています。

(2)資産を増やしたい費目

図16. 家計の中でとりわけ資産を増やしたい費目【2つ以内】(見直しが必要と感じる人のみ)



年代	20代 <n=117>	97.4	12.8	5.1	4.3	3.4	1.7	1.7
	30代 <n=109>	83.5	22.0	15.6	11.9	2.8	0.9	-
	40代 <n=118>	86.4	13.6	19.5	6.8	1.7	1.7	2.5
	50代 <n=115>	76.5	21.7	20.0	7.8	7.0	3.5	2.6
扶養 子供	いる <n=285>	89.5	15.8	12.3	7.4	2.5	2.5	1.8
	いない <n=174>	80.5	20.1	19.5	8.0	5.7	1.1	1.7
住 宅	ある <n=216>	84.3	14.4	17.6	6.9	1.9	2.8	2.8
	ない <n=243>	87.7	20.2	12.8	8.2	5.3	1.2	0.8
世 帯 年 収	600万円未満 <n=161>	92.5	14.3	9.3	5.0	2.5	2.5	0.6
	600~800万円未満 <n=106>	84.0	21.7	16.0	7.5	2.8	0.9	2.8
	800~1000万円未満 <n=92>	85.9	19.6	12.0	9.8	4.3	2.2	2.2
	1000万円以上 <n=100>	78.0	16.0	26.0	10.0	6.0	2.0	2.0
ポ ス ト 額 ナ	50万円未満 <n=141>	85.8	17.0	11.3	5.7	2.8	4.3	0.7
	50~100万円未満 <n=194>	88.1	16.0	12.4	10.3	3.6	1.0	1.0
	100万円以上 <n=124>	83.1	20.2	23.4	5.6	4.8	0.8	4.0

<家計を見直したい>と答えた人に、家計のなかでどのような資産を増やしたいと考えているかについても聞きました。

「預貯金」(86.1%)は8割以上があげており圧倒的となっています。そのほかでは「国債などの投資信託」(17.4%)と「株式」(15.0%)が1割強で、やや目につく程度です。

- いずれの属性でも「預貯金」が圧倒的に多く、大きな違いは見られません。

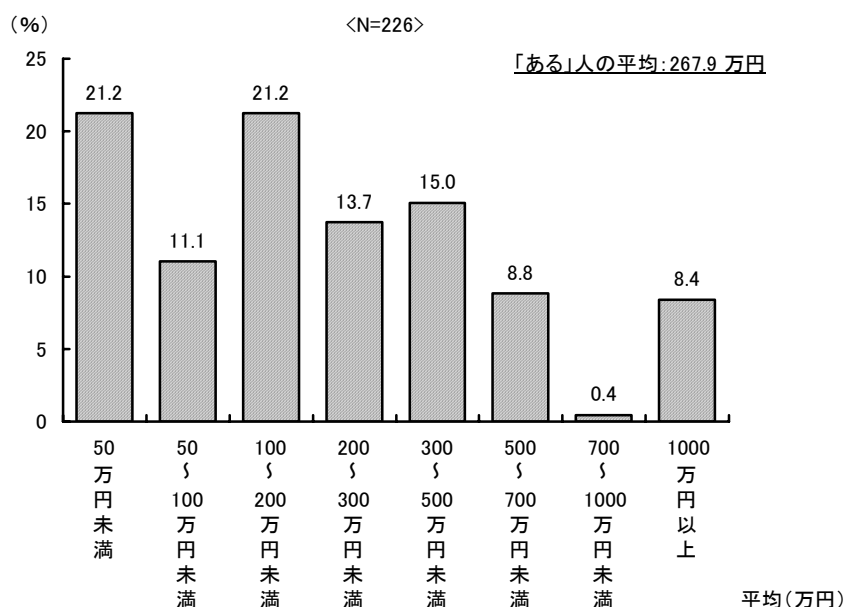
〔5〕妻が夫に内緒にしている資産

1. 妻が夫に内緒にしている資産の額

夫に内緒の資産を持つ主婦は45.2%。その額は平均267.9万円。

◆《正規有職》は平均476.4万円で、《専業主婦》(228.0万円)《パート》(250.0万円)のほぼ2倍。

図17. 妻が夫に内緒にしている資産の額(ある人のみ)



属性	属性内	資産の額 (万円)								平均(万円)
		200万円未満	200~500万円未済	500~1000万円未済	1000万円以上	200万円未満	200~500万円未済	500~1000万円未済	1000万円以上	
年代	20代 <n=51>	35.3	15.7	21.6	9.8	9.8	3.9	-	3.9	151.3
	30代 <n=62>	35.5	9.7	24.2	12.9	8.1	3.2	1.6	4.8	185.4
	40代 <n=55>	9.1	14.5	16.4	23.6	23.6	7.3	-	5.5	251.3
	50代 <n=58>	5.2	5.2	22.4	8.6	19.0	20.7	-	19.0	474.2
仕事有無	正規有職 <n=30>	13.3	10.0	23.3	13.3	3.3	16.7	-	20.0	476.4
	パート・アルバイト <n=71>	18.3	14.1	19.7	12.7	19.7	8.5	-	7.0	250
	専業主婦 <n=125>	24.8	9.6	21.6	14.4	15.2	7.2	0.8	6.4	228
扶養	いる <n=136>	24.3	13.2	19.9	14.0	15.4	8.8	-	4.4	211.7
	いない <n=90>	16.7	7.8	23.3	13.3	14.4	8.9	1.1	14.4	352.7
住戸	ある <n=103>	22.3	11.7	21.4	18.4	13.6	6.8	-	5.8	233.9
	ない <n=123>	20.3	10.6	21.1	9.8	16.3	10.6	0.8	10.6	296.3
世帯年収	600万円未満 <n=72>	38.9	15.3	19.4	8.3	11.1	2.8	-	4.2	145.2
	600~800万円未済 <n=55>	23.6	9.1	29.1	16.4	9.1	7.3	1.8	3.6	197
	800~1000万円未済 <n=44>	9.1	11.4	27.3	20.5	18.2	6.8	-	6.8	295.7
	1000万円以上 <n=55>	5.5	7.3	10.9	12.7	23.6	20.0	-	20.0	477.1

サラリーマン世帯の主婦は、夫に内緒にしている資産（へそくり、結婚するときに持ってきたお金、結婚後貯めたお金など）をどれくらいの割合で、いくらくらい持っているのでしょうか。

「ある」（45.2%）が4割を超えており、「ない」（54.8%）が半数強となっています。

持っている資産額では、「50万円未満」「100～200万円未済」（各21.2%）が2割ずつで最も多く、以下「300～500万円未済」（15.0%）、「200～300万円未済」（13.7%）、「50～100万円未済」（11.1%）などが続いています。あるという人の半数以上は“200万円未済”（53.5%）とい

うことです。その一方で、「1,000万円以上」(8.4%)も1割弱あります。

ちなみに、最高金額は3,000万円、平均金額は267.9万円です。

- 持っている割合はいずれの属性でも際立った差はありません。持っている資産額について見てみます。
- 年代別に見ると、《20代》《30代》は「50万円未満」(35.3%、35.5%)が多く、平均金額は151.3万円と185.4万円ですが、《40代》は平均金額が251.3万円、《50代》は474.2万円と、年齢が高い人ほど高額となっています。
- 妻の職業別に見ると、《専業主婦》は平均金額が228.0万円、《パート》は250.0万円ですが、《正規有職》では476.4万円と、ほぼ2倍となっています。
- 住宅ローンの有無別に見ると、《ある人》の平均金額233.9万円に対して、《ない人》は296.3万円と、圧倒的というほどの差はありません。
- 世帯年収別に見ると、年収の多い人ほど高額となっており、《600万円未満》では145.2万円、《600～800万円未満》では197.0万円、《800～1,000万円未満》は295.7万円ですが、《1,000万円以上》では477.1万円となっています。

2. 夫に内緒の資産の目的

「いざという時の備え」(59件)が最も多い。以下「自分のお小遣い」(30件)、「老後の備え」(24件)が続く。「目的はないが持っている则安心」(23件)も多い。

表3. 夫に内緒で資産を持っている目的

順位	内 容	件数
1	いざという時の備え	59
2	自分のお小遣い	30
3	老後の備え	24
4	目的はないが持っている则安心	23
5	特に目的はない	18
6	自分の楽しみのために使う	15
7	自分の老後のため	10
8	マイホームの資金	9
9	子どもの教育費	8
10	離婚した時の備え	7
11	旅行費用	6
13	夫に気兼ねなく使う	3
〃	子どものため	3
〃	欲しいものができた時の資金	3
16	実家に何かあった時の備え	2
〃	株式の購入資金	2

では、妻は夫に内緒で何のために資産を持っているのでしょうか。資産を持っていると答えた主婦に、資産を持っている最も大きな目的や理由、使い道などについて聞きました。

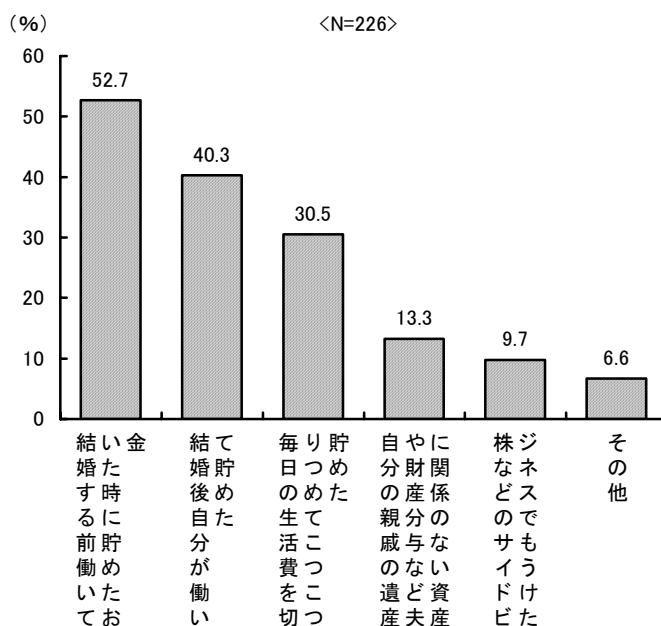
最も多いのは「いざという時の備え」(59件)で他を大きく上回っています。また、「老後の備え」(24件)も多くあげられています。そのほか、「自分のお小遣い」(30件)、「自分の楽しみのために使う」(15件)や「自分の老後のため」(10件)、「離婚したときの備え」(7件)といった『自分のために使う』というものや、「目的はないが持っている则安心」(23件)、「特に目的はない」(18件)などもあげられています。

3. 資産を得た方法

「結婚する前働いていた時に貯めた」(52.7%)が最も多く、次いで「結婚後自分が働いて貯めた」(40.3%)、「毎日の生活費を切りつめてこつこつ貯めた」(30.5%)の順。

◆《パート》《正規有職》は「結婚後自分が働いて貯めた」(59.2%、56.7%)が最も多いが、《専業主婦》は「結婚する前働いていた時に貯めた」(58.4%)が多い。

図18. 資産はどのようにして得たものか【複数回答】(持っている人のみ)



属性	年代	結婚する前働いていた時に貯めた	結婚後自分が働いて貯めた	毎日の生活費を切りつめて貯めた	自やに分財関係の親戚との遺産を切つ	株などでもさういふだけ	その他
年代	20代 <n=51>	58.8	35.3	37.3	7.8	3.9	3.9
	30代 <n=62>	59.7	30.6	25.8	4.8	14.5	8.1
	40代 <n=55>	52.7	43.6	29.1	14.5	5.5	3.6
	50代 <n=58>	39.7	51.7	31.0	25.9	13.8	10.3
仕事の有無	正規有職 <n=30>	50.0	56.7	30.0	10.0	13.3	3.3
	パート・アルバイト <n=71>	43.7	59.2	28.2	14.1	8.5	4.2
	専業主婦 <n=125>	58.4	25.6	32.0	13.6	9.6	8.8
夫役の職	役職なし <n=69>	52.2	31.9	33.3	8.7	11.6	7.2
	係長・主任クラス <n=70>	61.4	42.9	27.1	5.7	7.1	10.0
	課長クラス以上 <n=87>	46.0	44.8	31.0	23.0	10.3	3.4
世帯年収	600万円未満 <n=72>	51.4	31.9	31.9	11.1	5.6	11.1
	600~800万円未満 <n=55>	60.0	34.5	34.5	3.6	14.5	7.3
	800~1000万円未満 <n=44>	54.5	50.0	27.3	9.1	6.8	4.5
	1000万円以上 <n=55>	45.5	49.1	27.3	29.1	12.7	1.8

夫に内緒の資産はどのようにして手に入れたものかについても聞いてみました。

「結婚する前働いていた時に貯めたお金」(52.7%)が最も多く半数以上があげています。次いで「結婚後自分が働いて貯めた」(40.3%)が多く、「毎日の生活費を切りつめてこつこつ貯めた」(30.5%)も少なくありません。

- 年代別に見ると、《20代》から《40代》では「結婚する前働いていた時に貯めたお金」(58.8%、59.7%、52.7%)が半数を超えています。《50代》(39.7%)では4割に満たなく「結婚後自分が働いて貯めた」(51.7%)が最も多くなっています。

- 妻の職業別に見ると、《専業主婦》は「結婚する前働いていた時に貯めた」(58.4%)が最も多く半数を超えていますが、《パート》《正規有職》は「結婚後自分が働いて貯めた」(59.2%、56.7%)が最も多く、次いで「結婚する前働いていた時に貯めた」(43.7%、50.0%)の順となっています。
- 世帯年収別に見ると、《600万円未満》《600～800万円未満》は「結婚する前働いていた時に貯めた」(51.4%、60.0%)が最も多くなっていますが、《800～1,000万円未満》《1,000万円以上》では「結婚後自分が働いて貯めた」(50.0%、49.1%)と「結婚する前働いていた時に貯めた」(54.5%、45.5%)が拮抗しています。また、《1,000万円以上》は「自分の親戚の遺産や財産分与など夫に関係のない資産」(29.1%)も多くあげています。